

窓口支援事例 【福岡県 知財総合支援窓口】

企業情報

SUNAOLAB.			
所在地	福岡県朝倉郡筑前町原地蔵2232-24		
ホームページ URL	http://sunaolab.jp/		
設立年	2009年	業種	プロダクトデザイン
従業員数	1人	資本金	-万円

企業概要

“たのしい”と暮らそう。

SUNAOLAB.(スナオラボ)は、「たのしい」と暮らそう。」をコンセプトに毎日の暮らしで活躍してくれるデザインプロダクトを発信するブランドです。

きちんと使える機能、安心・安全な素材、人に寄り添うかたち、そんな基本性能を備えつつ、“楽しさ”を加えたデザインで、こどもも大人も笑顔にしたいと考えています。



自社の強み

設立以来、ベビーやこどもに関わるプロダクトやプロジェクト、ワークショップをやってまいりました。こどもは、感覚に対して正直で、打てばちゃんと響いてくれます。だからこそこどもには良い素材を与えてあげたいと思います。

こどもと相性のいい木材を使用し、純粋に“使いやすい”という機能性をカタチにまとめることで、モノとして成り立たせる。人が何気なくとる自然な行動の中に存在する“あったらいいな”のヒントをカタチにする。そんな思いでモノづくりに取り組んでいます。



一押し商品

HOUSE TRIVETS

なべしきハウス

ちょっと便利で新しい、コンパクトに折りたためる鍋敷きです。使わないときは、お家の形をしたオブジェのよう。

そのままテーブルや棚に置いておけば、インテリアのひとつに。革ひも部分をフックなどに引っ掛けて吊るしておくこともできます。使いたいときにパッと広げて鍋敷きに早変わり。他にはない個性的なデザインで、ギフトとしても喜ばれます。”結婚祝い”や”新築祝い”にもおすすめです。（写真は『MoMA Design Store』2015・秋カタログ）



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

国内のある展示会で、前述の「なべしきハウス」が、ニューヨーク近代美術館公式ストア『MoMA Design Store』のバイヤーの目に留まり、米国への販売契約が決まりそうになったところで、先方よりブランド（商標）の管理について問い合わせがあったそうです。それが、ブランドおよび商標について考えるきっかけとなり、出願にあたり不明な点が生じたとのことで知財総合支援窓口をご利用されることとなりました。

最初の相談概要

最初のご相談は、ハウスマークを国内で商標出願するにあたり、指定商品の記載についてよくわからないとのご相談でした。そこで、まずは同社で取り扱われている（または取り扱い予定の）商品について、列挙することからはじめました。

指定商品が決まれば、次はその類似商品の範疇で既に類似の登録商標が無いかどうかの調査が必要です。特許情報プラットフォーム“J-PlatPat”での検索方法を説明し、検索いただくようお話ししました。

その後の相談概要

その後、類似の先行登録が見つかったとのことで配置専門家（弁理士）による無料相談をご利用いただき、出願商標の態様を工夫することで登録の可能性は高まるのではないかとのアドバイスを経て出願することができました。

さらにその国内出願を基礎として優先権主張による米国出願も行われ、併せて「外国出願支援事業」も活用いただけました。前記事業の公募締切と米国への商品出荷日が迫る中ではありましたが、最終的に無事米国への第1弾の出荷をすることができました。

窓口を活用して変わったところ

きっかけは取引先からという外部要因によるものでしたが、今回の事例で、優しさとぬくもりの中に計算された機能が同居する商品のイメージと商標が結びつくことで、同社のブランドがより強固になることを実感いただけました。今後の商品についても企画段階から知的財産権（特に意匠権取得）を意識して取組まれています。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

おかげさまで、時間のない中で商標出願まで実現することができ、非常に助かりました。また、今回の出来事をきっかけに知的財産権に対する知識が深まりました。個人的には、ビジネス展開する上で知的財産権の重要性はこれから益々高まるのではと思いますし、知的財産権戦略を考える上で何か疑問点などがあれば、一度、ご相談されてみると良いかと思います。

窓口担当者から一言（氏名：佐々木 賢）



同社から発信される商品の優しさとぬくもりが商標からも感じられるようなネーミングだと思います。日程的にもタイトな中にもかかわらず、私の説明や専門家のアドバイスに、まさに“素直”に耳を傾けていただき、真摯に取り組まれたことが結果につながったと感じました。